

和らぎ始めた世界的な金融不安への警戒感



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 相次ぐ迅速な対応で金融不安和らぐ

米金融機関の破綻を受けた米預金者保護策や米金融機関への資金供給支援策に加え、欧州大手金融機関の救済、米ドルの資金繰り支援策など、世界の金融当局の迅速な対応もあり、金融システムへの投資家の警戒感が和らぎ始めました。イレブン米財務長官は21日、「中小銀行が預金流出に陥れば、当局による預金保護が正当化される」と述べ、今後も中小銀行が経営難に陥った場合は思い切った措置を繰り返し講じる姿勢を示しました。また欧州中央銀行や英国の金融当局が、市場の不安を和らげる対策を示したことも明るい材料です。

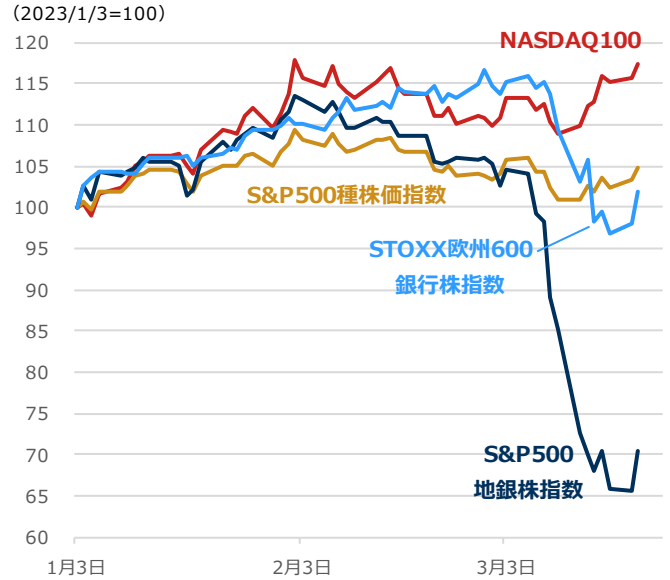
世界の金融当局によるこうした一連の迅速な対応が、投資家の不安解消につながっています。実際、足元の米主要株価指数や米欧の銀行株指数の動きがそれを物語っています（右上図）。

ポイント② 金融機関の米ドル調達ストレスも緩和

世界的に金融システム不安が高まっていたこともあり、「FRA-OISスプレッド」が上昇するなど、銀行間における信用リスクが意識され、金融機関の米ドルの調達にストレスがかかっている状況が続いていました（右下図）。ただ、主要中銀が協調して米ドルの供給支援策を打ち出したことで、同スプレッドは17日の47bpから21日には35bpに縮小するなど、金融機関を巡る信用不安は後退しつつあります。

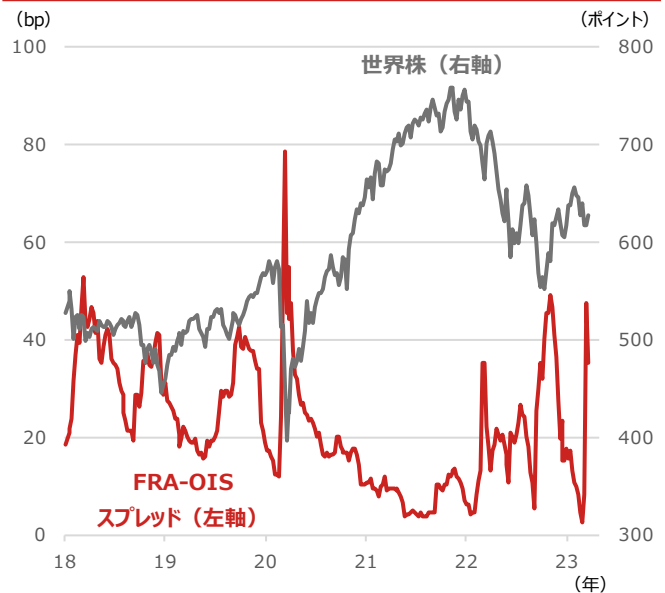
金融不安に端を発した世界株の調整圧力が和らぐなか（同図）、米国時間22日にはFOMC（米連邦公開市場委員会）の結果が発表されます。今回のFOMCでは利上げが行なわれる可能性が高いとみられますが、FOMCメンバーがどのような金利見通しを示すかに注目が集まります。

米主要株価指数と米欧銀行株指数



期間：2023年1月3日～2023年3月21日、日次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

FRA-OISスプレッドと世界株



期間：2018年1月5日～2023年3月21日、週次
FRA-OISスプレッドは米ドルの3ヵ月物の金利先渡し契約（FRA）と翌日物金利スワップ（OIS）の差（スプレッド）で金融市場のストレスを示す指標
・世界株はMSCI All Country World Index（米ドルベース）
・bpはベースポイント、1bp=0.01%
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。